

寺だより

'22/02/20 号
第102号
真宗大谷派
青龍山西光寺
珠洲市正院町正院

仏暦二五六五年の幕開け

修正会(しゅしようえ)で

西光寺法要スタート!



雪の中除夜の鐘を撞く



除夜の鐘に集まれた方々

鐘が鳴る中、年が明けて午前0時より、修正会が始まりました。修正会は、新年を祝うと同時に今年もお念仏と共に日々を送らせていただく誓いを新たにすお正月のすがすがしいお参りです。

大晦日から年越しにわたり、除夜の鐘、ならびに修正会を勤めました。午後11時50分より、西光寺境内に除夜の鐘がなり始めました。雪の降る中、厳しい寒さにもかかわらず大勢の方がおいでになられ、除夜の鐘をついていかれました。

阿弥陀さまの前で新しい年を迎えさせていただいた喜びと仏恩報謝の気持ちをもってお勤めをさせていただきます。



1/1 修正会のお勤め

毎年一月二日・三日は箱根駅伝が開催され、テレビやラジオでその様子が生中継されます。東京から箱根までの一〇〇キロを超える距離を五つの区間に分け、往路復路合わせて十人の学生ランナーがタスキをつなぎながら走ります。

思い通りに走ることができない選手もいれば、天候や思いがけないアクシデントで思い描いた走りができない選手もいる中で、それぞれの選手に共通していることは、「チームのためにタスキをつなごう」と、懸命に走っている姿です。その姿に感動とともに大切なことを教えられている気がいたします。

ここ数年、新型コロナウイルスの影響で、人々の生活も大きく変わり、お寺も法事や通夜・葬儀などに変化が生じています。

以前、ご法事は家族、親戚が集まり勤められていました。ところが、コロナ禍を契機として家族のみで勤められる

ことが多くなったり、時には延期するということも出てきました。今後、感染状況が収束して以前のような状態に戻るかという点、そう簡単にはいかなような気がしています。

新型コロナウイルスの感染拡大によつて、人と人とのつながりが希薄になったという声を聞きますが、仏縁(仏教の教えにであうご縁)も希薄にならないようにしなければと思います。

過疎化で、今後のお寺のあり方がよく問われます。それに加えてコロナ禍で生活スタイルの変化もあり、様々なことが移り変わる中で、変わることのない仏教の教えを正しく、わかりやすくお伝えしていく。

箱根駅伝の選手達がチームを思いタスキをつなぐために懸命に走るように、仏教の教えが次の世代に伝わるために何ができるのか、真剣に考えながら教えを伝えていきたいと思えます。浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の「世の中安穏なれ、仏法ひろまれ」のお言葉が身に染みます。聖人の願いを、少しでも実践するこ

とができるように、日々精進してまいります。

今年もよろしく
お願いいたします。



タスキをつなぐ

春勧化のお参りを中止します

二月二十五日から二十八日まで、布教使さんに、元尾教恵先生(宝達志水)をお迎えし西光寺春勧化をお勤めする予定でしたが、石川県全県に新型コロナウイルス対策の「まん延防止等重点措置」が適用されていることを鑑み、総代会で協議の結果、開催中止を決定しました。

新型コロナウイルス・オミクロン株の感染者が激増し、身近にせまっています。皆さまにはくれぐれもお気をつけてお過ごしください。よう念じ申し上げます。

福は内！ 鬼は外？

二月三日は、節分でした。

節分と言えば豆まきです。豆まきの際に「福は内、鬼は外」と言つて豆をまきますが、「鬼は内、福は外」というかけ声の地域もあるそうです。「我が家に鬼を招き入れ、福を外に出すことで周りの人が幸せになる。そうすれば巡り巡つて自分たちも幸せになる」という考え方だそうです。

浄土真宗は、豆まきをして無病息災を祈願するといったことはしません。

また、自分の都合の悪い者を鬼、自分に都合の良い者を福という、都合のいいものだけを取り込もうとする姿がまさに煩惱(ぼんのう)にまみれた凡夫(ぼんぶ)であるからだと考えられます。

ちなみに、真宗ではあまり節分の「豆まき」はしません。が、するとしたら、かけ声はやはり、「福は内、鬼も内」ですね。



鬼退治・「他者の物語」を想像する

明快なお話の中に教訓が込められた「昔話」。「桃太郎」や「浦島太郎」など、私たちは子どもの頃からたくさん物語に親しんできました。

悪事をはたらく悪者を正義の味方がこらしめる「勧善懲悪」の物語はいつも定番です。しかし、こらしめられてしまった悪者は、本当に悪者だったのでしょうか。

NHKのEテレで、おなじみの昔話を現代の法廷で審議する「昔話法廷」という番組が放送されています。

『昔話法廷 「桃太郎」裁判』では、桃太郎を被告人として裁判が行われました。罪名は、鬼に対しての殺人傷害

罪と鬼の財宝を奪った強盗罪です。鬼退治と称して、鬼ヶ島に上陸。鬼を襲撃し、財産を奪った桃太郎を死刑にするか、しなやか…。

この番組を視聴して、桃太郎



NHK・Eテレ 「昔話法廷」より

・村人の立場でしかこの物語を読んていなかった自分に気づかされました。

「鬼」はやつつけられて当然だとう先入観があり、鬼の財宝は桃太郎が奪つて当然だと思つていたので。「桃太郎や村人」から鬼を見れば、鬼は自分たちにとつて「悪」そのものです。一方「鬼たち」から桃太郎や村人を見れば、自分たち鬼を差別し、自分たちの存在を否定する「悪」でしかないのです。

人間は一人では生きていけません。必ず誰かと関わつて暮らしていくのですから、やはり相手に共感し、理解することが必要です。

大切なのは、考えが違う人といかに共存するかということだと思います。

*これまで放送された番組はインターネットで視聴することができます。

二〇二二年度総代会報告

2月13日(日)、総代会が開かれ、総代会組織、護持委員会に提出する議案等について、話し合いました。詳細は、「寺だより四月号」に掲載します。

◇護持委員会について

本年度の護持委員会は、コロナ感染拡大防止という観点から、多人数の方が集まることを避け、昨年同様書面表決にて議決することになりました。

なお、2月27日(日)に、役員が提出された書面表決書を集計します。結果につきましては「寺だより四月号」に掲載します。



昨年春の彼岸会

春季彼岸会 3月21日(月) 午後二時

西光寺春の彼岸会法要を、今年も、春分の日の3月21日(月)、午後二時からお勤めいたします。

お彼岸の時期になると、お墓やお寺にお参りする姿が多く見られます。お彼岸は一般的には、ご先祖の供養をする仏

事と考えられていますが、本来は、自分自身の仏道精進の意味を持つ行事です。

真宗において「彼岸」とは阿弥陀仏の「浄土」を指します。浄土は、私たちが還つていく世界であると同時に、迷いの世界である「此岸」に生きる私たちのあり方を照らし、私自身の生き方を問いかけてくる世界です。

お彼岸は、浄土に還つていかれた亡き人を偲ぶとともに、あらためて自らへの問いかけに耳をかたむけ、自分の生活を振り返る大切な時なのです。

法話は住職が行います。亡き人に思いをなし、お念仏のみ教えに耳を傾けてみませんか。

年回法要(ご法事)の案内

年回法要は亡き人のご命日を縁としてお勤めする「仏法行事」です。故人を偲び、生きている私たちが自らのいのちに思いを巡らせる貴重な仏縁です。

コロナ禍においては、ご法事を勤める事に不安を感じていらつしやるかと思えます。ご法事を安心して勤めるためには、やはり三密を避けるという対策は必要かと思えます。

○出席人数を抑制する(家族、近い

親戚のみ等)

○会食を避ける

○広い空間で行う(お寺で行う方法もあり)

○換気を良くする

○延期する

*法事には、親戚たちが顔を合わせ、近況を確認しあうといった役割もあります。新型コロナウイルスが収束したら、勤めるのも良いかもしれません。

2022年度 年回法要	
一周忌	令和3年 命終
三回忌	令和2年 命終
七回忌	平成28年 命終
十三回忌	平成22年 命終
十七回忌	平成18年 命終
二十三回忌	平成12年 命終
二十七回忌	平成8年 命終
三十三回忌	平成2年 命終
五十回忌	昭和48年 命終

本江寺地区の皆さんへ

「お取越し・齋始めときはじめ」のお参りですが、例年通り、三月初旬に予定していますのでよろしく願います。

2022年(令和4年)度 行事予定

月	日	曜	時	法座・行事名	おつとめ	布教師
1	1	土	午前0時～	修正会	阿弥陀経	
2	13	日	午前10時～	総代会		
2	20	日	午前10時～	役員会(書面表決)		
2	25	金	中止	春勸化(はるがんげ)		
	26	土				
	27	日				
	28	月				
3	21	月	午後2時～	春季彼岸会	みなさんと一緒に「正信偈」	禧美 尚章 (住職)
4	24	日	午後1時30分	蓮如忌	正信偈行四句目下	山本 龍昇 師 (加賀市)
	25	月	午後1時～	蓮如忌	みなさんと一緒に「正信偈」	
6	25	土	午後2時～	永代経	お経さんの後に、みなさんと一緒に「正信偈」	寺西 良夫 師 (氷見市)
	26	日				
	27	月		26日 前年度物故者追悼法要		
	28	火				
8	15	月	午後3時～	孟蘭盆会法要		
9	23	金	午後2時～	秋季彼岸会	みなさんと一緒に「正信偈」	禧美 尚章 (住職)
11	6	日	おあさじ;午前9時	報恩講	みなさんと一緒に「正信偈」	信楽 明生 師 (三崎町杉山)
	7	月	お日中;午前10時	// おおたいや		
	8	火	お逮夜;午後1時	// 結願日中		
	9	水	午前9時	報恩講おさらい	正信偈	
12	31	木	午後11時45分	除夜の鐘		

報恩講当番 正院・今町

○4月から10月まで、毎月8日に法和会を予定しています。

|| 編集後記 ||

明けましておめでとうございます。昨年は皆様にとってどのような一年でしたか。振り返って見ると、全ての方に当てはまるのが新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、ワクチンの接種や外出の自粛をする日々であったのではないのでしょうか。解決策がないまま、さらに変異株のオミクロン株の感染者があつというまに増えつつあります。

新型コロナウイルスは私たちに多くのことを問いかけているのではないのでしょうか。必ず死する身である私たちが、今、生きているということは驚くべき事であるということですか。

私たちは、生きていることにどれだけ感動しているのでしょうか。

そして、コロナで何事も簡略化することが広がっていますが、簡略化してはいけないことまで簡略化してはいないのでしょうか。

コロナ感染は今年も続くと考えますが、本当に大切にすべきことは何でしょうか。親鸞聖人の明らかにされたお念仏の教えを通して、「本当に大事なことはどのようなかを、少しでも明らかにできる一年になればと思います。

南無阿弥陀仏